

「理学部と工学部の歴史的起源
～初期近代における「混合数学」(mixed mathematics)を例に～」

隠岐 さや香

(広島大学大学院 総合科学研究科 准教授)

現代の大学には理学部と工学部がありますが18世紀まで両方とも大学には存在しませんでした。そして歴史を辿れば、両者—理学と工学—はもともとかなり異なる文化的、社会的起源を持っています。しかし矛盾するようですが、異なっている一方で、両者の絡み合いが科学の歴史を形作ってきたという側面もあります。必然的に絡み合うからこそ、西洋の人々はむしろ両者の関係を整理しようとして、分野の分類を行いました。こうして様々な制度が作られていき、今があるのです。

今回のセミナーでは学問のあり方が激しく揺れ動いた「初期近代」と呼ばれる16–18世紀頃を中心にその経緯を見ていきたいと思います。

プロフィール

◎隠岐さや香

1975 年東京生まれ。広島大学大学院総合科学研究科・准教授。科学技術史家。博士(学術)。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学後、フランスの社会科学高等研究院(EHESS)留学。日本学術振興会特別研究員 PD、東京大学特任研究員、玉川大学 GCOE 研究員を経て、現職。

科学が社会の中でどのような位置づけを与えられてきたか、という問題関心から「科学者」という職業がいかに構想され、制度的な位置を与えられてきたかを研究している。著書に「科学アカデミーと「有用な科学」」(名古屋大学出版)。

2011 年サントリー学芸賞、2013 年日本学術振興会賞受賞。